



エゾシカ協会設立25周年を迎えて ～これまでとこれから～

松浦友紀子 ymtur@yezodeer.org

一般社団法人エゾシカ協会専務理事
森林総合研究所北海道支所

1999年2月に設立されたエゾシカ協会は、今年25周年を迎えました。これほど長く続けることができたのも、ひとえに会員の皆様のお力添えのおかげです。

1999年といえば、鳥獣保護法（現鳥獣保護管理法）改正により特定鳥獣保護管理計画制度が創設された年です。これによりエゾシカをはじめ、著しく増加している種の「科学的・計画的な管理」が初めて制度化されました。

「エゾシカ保護管理」の四半世紀

エゾシカに対しては、北海道が前年1998年に「緊急減少措置」を発出していました。メスシカを全面解禁し、従来の保護から積極的な捕獲へと、政策転換が図られた時期でした。改正法に基づいて策定されたエゾシカ管理計画は、この四半世紀に6期を重ねていますが、残念ながらうまくいっているとはいえません。

計画捕獲数を達成できないまま、生息数の増加・生息域の拡大に歯止めが掛かっていません。狩猟者依存の捕獲体制も変わらないまま、銃を所持できる第一種銃猟免許所持者は減少しています。2015年に導入された認定鳥獣捕獲等事業者制度により、捕獲の担い手が新たに加わると期待されましたが、指定管理鳥獣捕獲等事業（認定鳥獣捕獲等事業者の従事が想定される事業）によるエゾシカの捕獲頭数は年間500～700頭程度と、捕獲数全体の0.5%にとどまっています。狩猟が困難なエリアでの実施とはいえ、このレベルではエゾシカは減らせません。

また、2018年に恵庭市内の国有林内で狩猟者の誤射により森林管理署職員が亡くなった事件以降、国有林（北海道の森林面積の55%）の大半で禁猟が続いています。人命第一が大原則ですが、このままでは国有林内でエゾシカの数が増えるのは自明です。モニタリングによれば、禁猟が続くエリアで、シカの数が10年前と比べて6倍に増えた場所もあります（池田・松浦他2023）。

2024年ハーフライフル規制がもたらすもの

さらに2024年には、ハーフライフル銃の規制強化が閣議決定され、現在国会で改正法案が審議されています。ライフル銃と同様、狩猟者は散弾銃（いわゆる鳥撃ち用）を所持して10年たたないとハーフライフル銃を所持できなくなります。都道府県から警察に対し、あらかじめ「事業被害の防止のため、ハーフライフル銃による特定の獣の捕獲が必要である旨の通知」があれば、狩猟/許可捕獲の区別なく、初年度からハーフライフル銃の所持許可が下りる特例が設定されるようです。でも、従前通りとはならないでしょう（詳細はエゾシカ協会HPの反対声明参照）。

この規制によって、とくに道外から北海道にくる狩猟者の減少が予想されます。北海道の狩猟者登録者のうち、15%程度は道外狩猟者で、令和4年度は43都府県から来道しています。道外狩猟者もエゾシカ捕獲に一定の貢献をしているのみならず、狩猟税や北海道に滞在する費用等の経済効果も少なくないはずです。

現在のハーフライフル銃の許可登録地をみると、北海道と北海道外がほぼ半々です。今回の銃刀法改正に対して、道内では当協会を含め、早い段階から反対の声が上がりましたが、都府県では同様の動きは見られません。ハーフライフル銃はシカ捕獲に有効な道具ですが、道外では見落と

25th Anniversary Issue

- p1 松浦友紀子「エゾシカ協会設立25周年を迎えて～これまでとこれから～」
- p3 渡邊拓真「シカの個体数管理におけるイヌの活用事例」
- p5 上原佐登「えぞしかるたて楽しく環境教育！」
池田敬「洞爺湖中島にアライグマ出現！」
- p6 伊吾田宏正「英国ハンティングスクールへの道」^⑩
- p7 伊藤英人「ワナ猟の世界」^⑪
- p8 青山則晴「料理の理」番外編
まんが「しっかり！シカくん」by ヒロヨン

引用文献

池田敬・松浦友紀子・高橋裕史・伊吾田宏正・渡邊拓真「禁猟に伴いシカの日周活動は変化するのか!？」第28回野生生物と社会学会大会要旨集、2023年

されているのかもしれませんが。エゾシカ管理だけでなく、今回の規制強化が、日本全国のシカ管理、またクマ管理に影響を及ぼすことは必至です。私たちは、今回の銃刀法改正が野生動物管理に及ぼす中長期的な影響を見極める必要があると考えています。

「狩猟者依存」の限界が見えた

エゾシカ協会設立からの四半世紀をたどりながら現状を見つめると、いま「狩猟者依存の野生動物管理の限界が見えてきた」と感じます。このたびのハーフライフル銃所持の規制強化により、狩猟者が担える範囲は今後いっそう狭まるでしょう。まずはその部分をカバーし、さらにこれまで以上の結果につながる新しい方法が必要です。

欧米では、野生動物管理の場面で捕獲を狩猟者に全面的に依存している事例など聞いたことがありません。地元の狩猟者と協力関係を結びつつ、行政機関の専門官が責任をもって対応する事例がほとんどです。

たとえば英国の国有林では、森林官自らがシカを捕獲して食肉として出荷し、個体数管理の責任を負っています。

市街地に出没したり、救護を必要としたりする野生動物に対しては、警察や消防が対策を担っている地域もあります。米国コネチカット州では、市街地に出没したクロクマやムースの移送を環境保全警察（Environmental Conservation Police Officers）が担当しています。英国ハンプシャー州の消防には動物救護（Animal Rescue）チームが存在し、野生動物を含む様々な動物種への対応方法について訓練し、対応しています。

北海道でもエゾシカやヒグマが市街地に出没する事例が相次いでいますが、発砲制限地域でさえ対応を一般の狩猟者に依存せざるをえない現状は大問題です。通報を受けて現場に駆けつける警察官も、訓練はおろか、対応マニュアル

すらなく、苦慮していると聞きます。欧米にならって公的機関による野生動物管理体制の構築を進めるべく、声をあげる時かもしれません。

さらなる「シカ肉活用」のために

この25年間でだいぶ変わったと感じるのは、エゾシカ肉の利用です。シカは「害獣」ではなく「資源」として農水省も明確にし、活用を促進し始めました。エゾシカ協会が10年間運営してきた処理施設の認証システムは、北海道が「エゾシカ肉処理施設認証制度」として引き継ぎました。2018年から国の「国産ジビエ認証制度」が始まり、当協会が当初から目指してきた「安全・安心なシカ肉の提供」が、全国的に展開されつつあります。

残る課題のひとつは、非認証施設との差別化です。消費者は「流通している肉＝安全な肉」と捉えがちですが、トレーサビリティが確立している認証施設に対し、非認証施設の衛生管理は確かめようがありません。もし食中毒などが起きたら、影響はシカ肉利用全体に及ぶでしょう。食肉の衛生の担保は最低限必要かつ最重要な事項です。認証施設で処理された肉の高い品質特性を周知して、差別化を進める必要があると考えています。

ふたつめの課題は、シカの解体・検査を担う個人の認証がない点です。厳しい衛生管理で知られるEUでは、シカ肉を流通させる際は「獣肉検査資格者（trained person）」による検査を義務づけています。当協会は、英国をモデルにした「シカ捕獲認証制度（DCC）」を2015年から運営しています。シカ管理技術と合わせ、食肉の衛生に関する知識と技術を試験・認証するもので、衛生分野の合格基準はEUの獣肉検査資格と同レベルです。国際基準に合致するDCCの活用など、国内にも解体・検査に携わる人材の認証が求められていると思います。

「森とエゾシカと人の共生」実現を！

協会の魅力は、設立当初から一貫してエゾシカを「資源」と見なしていることだと思っています。小さな一般社団法人ではありますが、地道に、そして確実に活動を続けることにより、多くの人を巻き込んで大きな流れを作ることができるでしょう。今後も様々な先進事例を積極的に取り入れながら、新たな仕組みを提案し、「森とエゾシカと人の共生」の実現に取り組んでまいります。



エゾシカ協会の（左から）伊吾田宏正副会長、渡邊拓真、稲富沙織、松浦友紀子専務理事と、シカ探索犬ボルト号（手前）。江別市の協会事務所前で、2024年3月22日撮影。

シカの個体数管理における イヌの活用事例

渡邊拓真 watanabe@yezodeer.org
一般社団法人エゾシカ協会



シカ探索犬を目指して日々特訓中のハンドラー（筆者）と
ボルト号（ジャーマン・シェパード・ドッグ）

イヌは、その優れた嗅覚と高いコミュニケーション能力のおかげで、古くから人間社会に貢献してきました。近年では、野生動物管理の分野にも活躍の場が広がっています。本稿では、日本とイギリスの事例を紹介しながら、シカ管理におけるイヌの可能性を探ります。

イヌの優れた能力

イヌの起源には諸説ありますが、4万年前～1万5000年前に野生のオオカミから進化したと考えられています。人類が最初に家畜化した動物とされ、その長い歴史と深い関係性を表すように、*Canis lupus familiaris*（家庭に属するオオカミ）という学名を与えられています。

狩猟や牧畜、護衛や荷物運搬など、さまざまな役割を与えられ、それぞれ最適化のために改良が加えられて、現在では400種以上の犬種が存在します。

どの犬種も優れた聴覚、視覚、学習能力を持ち合わせていますが、最大の能力はなんといっても嗅覚でしょう。麻薬探知犬や災害救助犬などで知られるように、人間には到底感知できない微量のニオイも嗅ぎ分けることができます。ヒトの嗅覚受容体は500万～600万個ですが、イヌは数億

個に達します。ニオイの情報を処理する脳の領域は、人間の約40倍もあるため、一説には人間の100万～1億倍とも言われる嗅覚能力を持つのです（ジャーマン・シェパードの場合）。イヌの2つの鼻孔はそれぞれ独立し、左右で異なるニオイを嗅ぎ分けていることが、近年の研究で報告されています。

日本の猟犬

「一犬、二足、三鉄砲」といわれるように、日本の狩猟家たちも古来からイヌを非常に重要視しています。シカやイノシシなどの巻き狩りでは、獲物のニオイを察知して、吠えながら相手を追い立て、射程圏内に追い込む役割を担ってきました。手負いの獲物をイヌに押さえさせ、銃で止めを刺すケースもあります。

とりわけ本州以南の地方では、猟犬には狩猟本能以外に、どんな地形にも対応できる体格が求められ、中型日本犬（紀州犬、四国犬、甲斐犬など）やハウンド（セントハウンド、ビーグルなど）が好まれています。

いっぽう、育成段階から狩猟本能を引き出す訓練を受けるうえ、猟場ではリード（引き紐）を外され、ハンドラーの視界から離れた場所で運用されることが多く、猟犬によ

る人や飼い犬などへの咬傷事故が毎年発生しているのも事実です。

シカ探索犬：イギリスの事例

イギリス国有林のシカを管理するワイルドライフ・レンジャーにとって、イヌは欠かせない存在です。シカ捕獲時（ストーキング猟）には必ず射手1人につき1頭のイヌを同行することと定められています。ただし、日本の猟犬と大きく異なり、イヌの役割はHuntingではなくTracking、つまり「追跡・探索」です。それには次の3つの理由があります。

- ① 射撃前のシカ探索：シカの存在や位置を察知し、静かにレンジャーに伝えることで、シカへの接近と捕獲が容易になり捕獲効率が上がる。
- ② 捕獲個体の発見：血痕や足跡を追跡することで、迅速かつ確実に捕獲個体を発見できる。
- ③ 負傷したシカの追跡：急所を外してしまった負傷したシカを迅速に追跡し、捕殺することで苦痛の軽減に貢献できる。

またイギリスでは、捕獲個体や負傷個体を発見する探索犬の育成や、訓練を受けた探索犬を現場に派遣するサービスを提供する非営利団体もあります（UK Deer Track & Recovery、UK Tracking dog Associationなど）。シカ探索犬には、ラブラドル・レトリバーや、「多目的ガンドッグ」と呼ばれるジャーマン・ショート・ヘアード・ポインターなどが選ばれることが多いようです。

野生動物探索犬

コアラ（オーストラリア）、キーウィやフクロオウム（ニュージーランド）、外来ヘビ（アメリカ）、ヒアリ（台湾）など、希少種保全や外来種対策にさまざまな探索犬が

導入されています。日本国内では、奄美大島でのマンガース防除事業が探索犬導入の代表例です。マンガースは在来生態系に深刻な被害を与える外来生物であり、根絶を目指した捕獲活動が2000年度から続けられてきました。しかし、マンガースの個体数減少によって、従来のわな捕獲が難化したため、09年度から探索犬が導入されました。生体探索にはテリア系（フォックス×ボーダーテリア）、糞探索にはジャーマン・シェパード・ドッグやジャーマン・ショートヘア・ポインターが用いられています。これらのイヌはイギリスのシカ探索犬と同じく、マンガースを“狩る”のではなく、“探索と発見”に特化して訓練されています。

日本のシカ管理におけるイヌの可能性

日本の狩猟犬は、シカを追い立てることで効果的な捕獲に貢献してきました。しかし、イヌによる追い立てはシカの警戒心をさらに高め、継続的な捕獲を困難にする可能性もあります。シカ個体数管理において、継続的な捕獲や低密度維持を目指す場合、アニマルウェルフェアの観点からも、従来の追い立て型よりも探索に特化したイヌの活用が求められるでしょう。

シカ探索犬の育成を目指す際、マンガース探索犬の事例や育成方法は参考になるでしょう。探索犬全般に共通するのは、優れた嗅覚に加えて、高い集中力や指示に従う能力です。例えば、マンガース探索犬では、ニュージーランド自然保全省の「希少種・外来食肉目探索犬とハンドラー認定」の審査を受けて、専門的な訓練を受けています。訓練内容は、探索技術だけでなく、脚側行進（常にハンドラーの顔を見上げながら左側を歩く）、停止／招呼、待機など、災害救助犬や警察犬などの使役犬に求められるようなオビディエンス（服従）トレーニングも含まれています。

表 猟犬と探索犬に求められる資質・能力の違い

	日本における猟犬	シカ探索犬	野生動物探索犬
役割	・獲物の追い立ち役 ・吠えたり噛みつく止め芸		・生体の追跡 ・痕跡の探索
対象種への執着心	強い		弱い
求められる能力	・対象動物への追跡 ・強い狩猟本能		・対象動物への脅威（攻撃）を与えない ・従順性
代表的な犬種	・中型日本犬 ・ハウンド系	・ラブラドル・レトリバー ・多目的ガンドッグ系	・ラブラドル・レトリバー ・ジャーマン・シェパード ・ボーダーコリー

参考文献

- 一般社団法人大日本猟友会（2018）狩猟読本
Rooney, NJ & Bradshaw, JWS (2004) Breed and sex differences in the behavioural attributes of specialist search dogs—a questionnaire survey of trainers and handlers, Applied Animal Behaviour Science, vol. 86, pp. 123–35.
Siniscalchi, M., Sasso, R., Pepe, A. M., Dimatteo, S., Vallortigara, G., & Quaranta, A. (2011). Sniffing with the right nostril: Lateralization of response to odour stimuli by dogs. Animal Behaviour Science, vol.82, pp.399–404.



えぞしかるたで 楽しく環境教育!

上原佐登 酪農学園大学狩猟学研究室修士2年

子 供から大人まで、楽しく遊びながらエゾシカの生態や歴史を学べる「えぞしかるた」。実際に子供たちと遊んできました!

訪問したのは洞爺湖町立虻田小学校。5年生が町の環境教育プログラムを受講し、洞爺湖に生息しているウチダザリガニ(特定外来生物)や、中島のエゾシカ、町のごみ問題などについて学んでいます。11月9日の「洞爺湖のシカについて学ぼうパート2」の中で、かるたを使って遊びながら楽しくシカのことを勉強しました。

体育館でグループに分かれ、こんなカードを並べました。

「かれづのは 春には落ちて また生える」
「とび出すな シカには言っても わからない」
「それはだめ さしみもタタキも 生肉だ」

1枚取るたびに解説を交え、より深く理解してもらえたと思います。子供たちは「家族にも教えてあげよう!」「休み時間にもう1度遊びたい!」と盛り上がってくれました。座学では無関心に見えても、かるたには積極的だった子もいて、体を使って遊びながら学ぶ効果を改めて感じました。

かるた裏面のマニアックなエゾシカ・クイズを紹介すると、「全部覚えたらシカ博士になれるね!」と興味津々な様子でした。繰り返し遊んで「シカ知識」を身につけて、家庭でもシカとの上手なつきあい方を話題にしてくれたらと願いつつ、授業を終えました。



「えぞしかるた」は当協会ホームページから購入いただけます。皆様のご購入を心よりお待ちしております。



TOPICS

洞爺湖中島にアライグマ出現!

池田 敬

洞爺湖中島エゾシカ調査会/信州大学

北 海道におけるアライグマは、1979年に恵庭市内で野生化し、現在では道内全域で目撃され、2020年度には1億2000万円の農業被害が報告されている。そのアライグマが、洞爺湖中島でも確認された。

私は洞爺湖中島に自動撮影カメラを設置して約15年である。これまで見てきた枚数は不明であるが、撮影される動物はシカ、リス、カラス、ネズミという感じで、他の地域と比べると面白い写真が撮影されることはなく、いつも機械的に画像を識別している。

その日は突然やって来た。中島で撮影されるはずのない縞々の尻尾を持つ中型哺乳類がPCの画面に映っていた。シカでも滅多に泳ぎ切ることのない洞爺湖をアライグマが渡って来た。すぐに知り合いのアライグマ研究者に確認すると、「アメリカの島々では、アライグマが泳いで来て、

農業被害や希少種の捕食、感染症の伝播などが問題になっていますよ」と驚きもせず教えてくれた。最初の撮影である2022年8月以降、アライグマは島内各地のカメラで合計8回撮影された。静止画のため、1頭なのか複数頭なのかは不明であるが、間違いなくこの2年間、中島に滞在している。

中型哺乳類の分布情報は、捕獲や目撃だけに依存しているので、アライグマが捕獲・目撃された時点で、既にある程度侵入している可能性が高い。中島で使っている自動撮影カメラは、近年一般市民でも主にシカやクマなどの大型哺乳類の対策などに活用されている。このようなデータを収集するネットワークが構築されることで、将来的にはアライグマなどの外来種管理にも貢献する可能性があるだろう。

英国 ハンティング スクールへの道 その19



一般社団法人エゾシカ協会副会長
酪農学園大学狩猟管理学的研究室
伊吾田宏正 igoth@rakuno.ac.jp

DSC2 紀行②

スコットランドには、当協会が設立のモデルとしたアカシカ協会というシカの資源管理を推進する政府組織がありました。これは、1997年に北海道農政部が視察団を派遣した当時の名称で、その後、スコットランド自然遺産、そして現在は NatureScot がその業務を引き継いでいます。前回から、私が Deer Stalking Certificate Level 2 (DSC2) を取得したお話しをしていますが、その最初の審査場所が、イギリスの中でも初めて訪れるスコットランドだったのには、エゾシカ協会との縁を感じました。

2016年11月15日朝7時半、審査のための捕獲を開始します。審査者は猟区のオーナー、オランダ人のエイドリアン・ファン・ウェルさん。他に、猟区が雇用する若い deer manager とその犬が同行します。ヒースの荒野と針葉樹林の林縁を歩いて移動しながら、シカの群れを探します。上空には時折ワタリガラスとタカの一羽が飛んでいます。午前中は3時間で、まずオス成獣1頭、次に、オス成獣1頭、メス成獣2頭、幼獣1頭、そして、不明3頭、最後に不明8頭のアカシカの群れに遭遇しましたが、狙う前に逃走されてしまいました。

12時からは流し猟をしました。まず、オス成獣1頭、メス成獣2頭、幼獣2頭の群れに遭遇しましたが、バックストップが確保できず。その後、約60頭の群れを発見したものの、遠距離のため諦めます。そして遂にチャンスが来ました。十数頭のアカシカの群れに160mまで接近して伏射し、メス成獣を捕獲することができました。車に積んで、猟区の一次処理施設に運びます。捕獲個体は、頭部と四肢先を外してから、吊るして、内臓摘出をしました。その間、リンパ節や内臓を観察して、異常はなく、病気に感染している状態が認められなかったため、食肉業者に出荷するため、



アカシカの群れに忍び寄る筆者。

皮付きの状態冷蔵庫に吊るしました。これで審査は終了です。

受検者が自ら完成させて、最後に審査機関に提出する“DSC2 調書”には、それぞれの捕獲個体について審査者が確認すべき合計27の審査項目があります(表)。他に、受検者が捕獲の顛末を記録する欄と、それに対して審査者が総合評価を記載する欄もあります。1頭目は全ての項目をクリアし、総合評価の記載もしてもらいました。

翌日も出猟し、メス亜成獣のアカシカを1頭捕獲して、審査をパスすることができました。DSC2取得まで、残りあと1頭です。この後は、イングランドに移動して、ダマジカ猟にトライします。

表. DSC2の審査項目

要素1	シカへの接近：捕獲すべき個体を発見できるか、安全に対象個体に接近できるか、など6項目
要素2	シカの捕獲：安全に銃を扱えるか、人道的、衛生的、安全にシカを撃てるか、など7項目
要素3	一時処理と検査：衛生的に内臓摘出ができるか、内臓とリンパ節の異常を確認できるか、など8項目
要素4	シカの運搬と保管：衛生的にシカを運搬できるか、法令を遵守して(温度など)シカを冷蔵保管できるか、など6項目

ワナ猟の世界

連載第29回

手づかみの極意

伊藤英人

有限会社 渡部製作所

<https://watabeshiki-wana.com>

ito@watabeshiki-wana.com

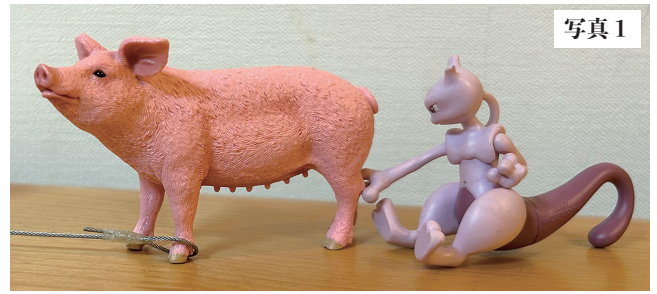
足 くりわなにかかって暴れる獣をどう止めるか。これを「止めさし」という。獣がフルパワーで向かってくる、最も危険で狩猟らしいシーンかもしれない。作業の性質上、重要なのに情報は少ない。テレビなら全面モザイクがかかるし、狩猟者に聞き取りをしても外野を気にして真実を語らない。実際は、まず、動きを止める作業がある。次の段階で、急所を刺して血を抜く。

動きの止め方

すばやく動く獣の急所を刺すのは難しいため、銃撃、電気、殴打、ワイヤーかけなどをして動きを止める。これらは技術、コスト、安全性、アニマルウェルフェア、肉や毛皮の傷みなどで優劣がある。私は最少人数の個人猟なので、荷物が多いととても困る。道具をなるべく使わず、かつ余計な傷をつけない方法を模索した。あるとき、イノシシが周りのササヤブに絡まって動けなくなっていて、戦闘が非常に楽だった。そこからヒントを得て、イノシシの弱点をつけば組手だけで抑え込めるのではないかと考えた。そして、安全性以外そこそこ優れた新手法「手づかみ」の開発に至った。組み伏せられれば、槍で遠くから急所を狙う必要すらなくなり、至近距離の一刺しで決められる。自分では理に適ったすばらしいやり方と思っており、エゾシカ協会25周年を記念して現場の一例として紹介するが、社長には怒られ、同行した学生に「正気の沙汰じゃない」といわれるし、狩猟者にとって危険なところが倫理的によくないので、普及させる気はない。真似してケガをしてもエゾシカ協会も私も責任を負わない。

イノシシの攻撃を防ぐ

以下、中型のイノシシを想定する（大型はまだちょっと怖い）。イノシシのおもな技は「突進」「かみつき」「牙裂き」



の3つで、どれも致命傷となる。足が短いので蹴りはシカより弱い。わなの支え木につながれたイノシシの可動域を見極め、そのギリギリ外側（キワと呼ぶ）に立つと、突っ込んでくるが直前で止まる。この位置にいれば突進が封じられ、口まわりだけ注意すればよい。このキワでの接近戦となる。イノシシは接近戦には意外にも弱い（私が強くなったのかもしれない）。

前足をとらえた場合

キワに立つと、突進のとき勢い余って転倒したり、後部が手前にきたりする（写真1）。このときに片方の後足をつかみ、持ち上げて仰向けにする。棒を股に差し込んで持ち上げ、後足を手前に寄せてつかむこともある。イノシシは股関節がカタク、ヒトのように反対の足に触れることができない（足だけで靴下が脱げない）。腹筋では体を曲げられず、かみつき攻撃を受けない。持ち手を嫌うが曲げ伸ばしの単調な動きしかできず、肘を曲げて持てばまず外されない。両手で片足をつかみ、支え木と逆の方向に引っ張り、横に倒して腰に乗ればもう起き上がれない。念のため口に結束バンドをしてかみつきを封じ、頸動脈を刺す。

足を狙っていることがバレると動きを変えてくるので、一発で決めたい。

後足をとらえた場合

キワで正面を向かれるので、後足をつかめない。ここで、首がほぼ曲がらないことを利用する。「あっち向いてホイ」をしたら、イノシシは下しか向けないのである。頭上に手をかざすと、上が向けないので、両前足で地面を押し、跳ね上がってかみつこうとする。そこで、口もとに何かちらつかせて気をひきつつ、反対の手で真上からすばやく頭頂部（耳の少し後ろ）のタテガミをつかみ、そのまま下に抑えつける（写真2）。かまれないよう注意。タテガミは抜けやすいので耳に持ち替える。その間に別の人々が後足をとる。あとは同じ。



青山則靖 料理の理 番外編

青山則靖・著
『青ちゃん流失敗知らずの定番料理』
2023年8月26日、北海道新聞社刊
ISBN-13: 978-4867211052
1600円+税



今回は、昨年8月に出版しました自著『青ちゃん流失敗知らずの定番料理』の紹介をさせていただきます。

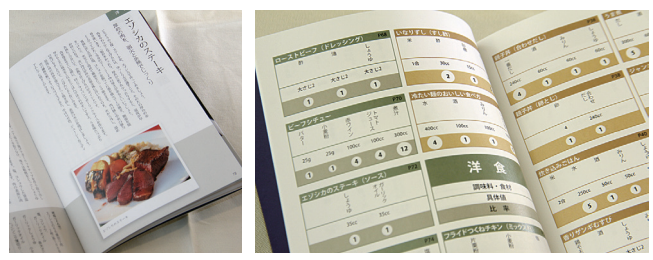
私にとって、『青ちゃんの解決レシピ』（2018年、エイチエス刊）に続く2冊目のレシピ本です。2014年4月から2021年9月まで「北海道新聞」に連載した記事原稿に加筆・修正して、完成させました。

- 本書ならではの特徴は、
- 1 各レシピの作り方をとにかく詳しく解説したこと
 - 2 「失敗知らず」の調理ポイントを必ず3つあげたこと
 - 3 全てのレシピが「作り方動画」に連動していること
- です。

品数をやたらたくさん載せるのではなく、厳選した67の定番料理の作り方を詳しく説明し、「失敗しない」ためのポイントをしっかりおさえて、文章で書き切れなかった部分はリンク動画で詳しく解説しております。

動画は、新聞連載時に全てのレシピの料理手順をキッチンスタジオで撮影・制作しました。スマートフォンやタブレットで本書のQRコードを読み取れば、ご家庭のキッチンにいながら、すぐに「北海道新聞デジタル」のホームページが開いて、動画をご覧いただけます。

エゾシカ肉を使ったレシピは、「エゾシカのステーキ」（本書p72）と「エゾシカのミートソーススパゲティ」（同p106）の2品です。新聞連載時の舞台裏を明かすと、ス



ターキヤミートソース料理の回に、「食材はぜひエゾシカで」と私が提案したら、さすがご当地・北海道新聞の編集部、すぐOKが出たうえ、いつもより大きく紙面に「6段1/2」のスペースを取って掲載してくれました。読者からは「エゾシカ肉を買いえるお店の情報がほしい」という感想が届いたそうです。

私のレシピは、味付けや材料のベストの組み合わせを比率で表すことが多いのですが、それを分量に換算する早見表を巻末に付けました。

じっくり読めば読むほど、お料理の腕がしっかり上達する一冊、と自負しています。ぜひご一読を！

一般社団法人エゾシカ協会
ニュースレター第56号
発行日 2024年4月15日
編集発行 一般社団法人エゾシカ協会
会長 鈴木正嗣
事務局長 松浦友紀子
〒069-0864
北海道江別市大麻泉町1-19
電話 011-375-7899
MAIL info@yezodeer.org
URL http://yezodeer.org
© 2024 Yezo Deer Association, All rights reserved.

Kitchen Support 青 supportao.exblog.jp
青ちゃんのエゾシカ料理講座
ロースステーキ編/絶品ロースト編
青椒肉絲編/万能水煮編/トマト煮編
ピラフ編/万能水煮和風アレンジ編
洋風アレンジ・スープカレー編

